

人文学研究科 欧米言語文化専攻

博士前期課程

教育研究上の目的

本専攻の博士前期課程では、言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野に関する専門知識を基盤とし、それを欧米地域の諸特性を踏まえて汎用する調査・研究能力と優れた言語運用能力を身につけ、教育・研究をはじめ様々な領域で活躍できる優れた知識と能力を備えた人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本専攻博士前期課程では、言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野に関する専門知識を基盤とし、それを欧米地域の諸特性を踏まえて汎用する調査・研究能力と優れた言語運用能力を身につけます。また、本学附設の研究組織である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、教育・研究をはじめ様々な領域で活躍できる優れた知識と能力を備えた人材の育成を目的としています。また、この課程は、言語教育の現場で活躍している社会人の再教育の場を提供することも目標として定めています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程のカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、修士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1)言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野に関する専門的知識と、それを幅広い視野から社会的な問題と結びつける力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1)高い言語運用能力を駆使して多様な資料にあたって研究を行い、研究成果を国内外で発信することができる。
 - (2)研究・教育をはじめ様々な領域で国際的に活躍できる力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門知識と技能
 - (1)言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野に関する専門知識を活かし、社会に貢献する力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程は、言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野における専門知識を基盤とし、それを欧米地域の諸特性を踏まえて汎用する調査・研究能力と優れた言語運用能力を培うことを目的とします。教育・研究をはじめ様々な領域で活躍できる優れた知識と能力を備えた人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1)学士課程教育との接続に配慮しつつ、言語運用能力を一層高め活用しながら、言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野についての専門知識を学び、それを欧米地域の諸問題に汎用する調査・研究能力を身につけられるカリキュラムを提供しています。
 - (2)講義科目では、「言語学」「言語教育・応用言語学」「文学・思想」「歴史・社会」の4コースに区分してカリキュラムを編成し、各コースにおいて専門知識と研究能力を身につけることができるよう科目を配置しています。

(3) 演習科目では、学生自らが設定した研究課題に関して積極的な研究活動を行うことによって修士論文作成へと導くことができるよう科目を配置しています。また、高度な言語運用能力やプレゼンテーション能力の向上のための指導も提供しています。

2. 教育の方法と評価

(1) 講義科目では、各学問分野の専門知識や研究方法を体系的に学ぶため、学生は自ら設定した研究課題に必要な講義科目を選択的に履修できます。演習科目では、各学問分野の研究能力やプレゼンテーション能力を向上させる指導が行われます。

(2) 教育者としての能力を高めるために、TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意しています。

(3) 修士論文の作成過程において、公開形式による中間報告会を実施しています。論文の進捗状況を確認し、指導教員のみならず、それ以外の教員や学生から問題点を指摘するなど適切な指導を行っています。

(4) 修士論文の審査には、3名の教員による口頭試問を実施し、適正な評価を行っています。

(5) 単位制度の実質化を図り、成績評価の基準を明確化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

(1) 言語学、文学、思想・宗教学、芸術学、歴史・社会学、言語教育学などに関する専門知識、それを当該地域の諸特性を踏まえて汎用する調査・研究能力と高度な言語運用能力を身につけます。

2. 本専攻の求める入学者

(1) 本専攻が取り扱う学問分野の基礎知識を有する人

(2) 研究に必要な高度な言語運用能力を備えている人

(3) 研究に対する強い意欲を持ち、研究・教育の分野で活躍することを目指す人

3. 大学までの能力に対する評価(選抜方法)

(1) 研究に必要な言語運用能力、本専攻が取り扱う学問分野の基礎知識、研究に対する意欲の高さを基準に選考します。

人文学研究科 欧米言語文化専攻

博士後期課程

教育研究上の目的

本専攻の博士後期課程では、言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野に関する豊かな専門知識を基盤とし、それを欧米地域の諸特性を踏まえて汎用する高度な調査・研究能力と言語運用能力、深い洞察力を身につけ、人間の本性に関する独創的な研究を行う資質を備えた研究者、教育者の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本専攻博士後期課程では、博士前期課程までに身につけた言語学、文学、思想・宗教学、芸術学、歴史・社会学、言語教育学などの分野に関する専門知識を基盤とし、それを欧米地域の諸特性を踏まえて汎用する高度な調査・研究能力と言語運用能力、深い洞察力を身につけます。また、本学附設の研究組織である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、人間の本性に関する独創的な研究を行う資質を備えた研究者の育成を目的としています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程のカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、博士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1)言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などに関する豊かな専門的知識と、それを幅広い視野から社会的な問題と結びつける力を身につけている。
- (2)人間の本性に関する深い洞察力と独創的な研究を行う資質を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1)高い言語運用能力を駆使して多様な資料にあたって研究を行い、研究成果を国内外で発信することができる。
- (2)国際的なレベルでの研究活動を行う力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門知識と技能

- (1)言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などに関する専門知識を活かし、社会に貢献する力を身につけている。
- (2)研究・教育界において国際的に活躍できる力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程は、言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などの分野における豊かな専門知識を基盤とし、それを当該地域の諸特性を踏まえて汎用する高度な調査・研究能力と言語運用能力、深い洞察力を身につけ、人間の本性に関する独創的な研究を行う資質を備えた研究者を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1)博士前期課程教育との接続に配慮しつつ、言語運用能力を一層高め活用しながら、言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などについての豊かな専門知識を学び、それを欧米地域の諸特性を踏まえて汎用する高度な調査・研究能力を身につけられるカリキュラムを提供しています。

- (2)講義科目では、「言語学」「言語教育・応用言語学」「文学・思想」「歴史・社会」の4コースに区分してカリキュラムを編成し、各コースにおける専門知識と研究能力を身につけることができるよう科目を配置しています。
- (3)演習科目では、学生自らが設定した研究課題に関して学際的かつ独創的な研究活動を行うことによって博士論文作成へと導くことができるよう科目を配置しています。また、高度な言語運用能力やプレゼンテーション能力の向上のための指導も提供しています。

2. 教育の方法と評価

- (1)講義科目では、各学問分野の高度な専門知識を体系的に学ぶため、学生は自ら設定した研究課題に必要な講義科目を選択的に履修できます。演習科目では、各学問分野の研究能力やプレゼンテーション能力を向上させる指導が行なわれます。
- (2)研究指導者・教育者としての能力を高めるために、TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意しています。
- (3)博士論文の作成過程において、公開形式による中間報告会と予備審査を実施し、高度な専門知識、独創性と学際性を持った論文作成ができるよう適切な指導を行なっています。
- (4)博士論文の審査には、論文審査と公聴会を実施し、厳格な評価を行っています。
- (5)単位制度の実質化を図り、成績評価の基準を明確化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1)言語学、文学、思想・宗教学、芸術文化学、歴史・社会学、言語教育学などに関する豊かな専門知識とそれを当該地域の諸特性を踏まえて汎用する高度な調査・研究能力と言語運用能力を身につけます。

2. 本専攻の求める入学者

- (1)本専攻が取り扱う学問分野の専門知識と研究能力を有する人
- (2)研究に必要な高度な言語運用能力を備えている人
- (3)研究に対する強い意欲を持ち、研究者として活躍することを目指す人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

- (1)研究に必要な言語運用能力、本専攻が取り扱う学問分野の専門知識、深い洞察力と独創的な視点、研究に対する意欲の高さを基準に選考します。